くまの議会だより



「ひと まち 育む 筆の都 熊野」を目指して…

令和8年
7月臨時会
9月定例会



主な内容

- **令和７年度決算を認定**
- **ずばり町政を問う！**
- **ワールドカフェを実施**

第140号
2026.11.1

熊野町議会のホームページから、本会議の会議録や議会中継をご覧いただけます

発行 ● **熊野町議会**　〒731-4292 広島県安芸郡熊野町中溝一丁目１番１号　TEL(082)820-5630　FAX(082)855-4520
議会の情報は、熊野町ホームページから。 https://www.town.kumano.lg.jp　E-mail:gikai@town.kumano.lg.jp
編集 ● **議会広報特別委員会**

9月定例会こんなことが決まりました

9月定例会は、9月2日から11日までの会期で開催されました。
報告2件、議案14件、認定2件、発議1件を慎重に審議し、原案のとおり可決しました。
一般質問では、7人の議員が町政の課題などを質しました。

令和8年度一般会計補正予算（第2号）を可決
歳入・歳出とも1億9,271万7千円の増額
総額126億4,374万1千円に

〈主なもの〉

❶ 保育所等運営一般事務事業 1,813万円

新たな保育施設の整備をするための工事請負費等の計上

Q 予算増額とした経緯は。

A 未就学児人口の増加、及び今年度県内唯一となる11人の待機児童が発生したため、出来庭地区に新たな保育所整備を行う。



▲保育所整備予定地

❷ 母子家庭等(※1)自立支援事業 177万9千円

申請件数の増加による母子家庭等自立支援給付金の増

Q 現在は何名に給付しているか。また、今後の予定は。

A ３名に給付している。
今後は、１名が准看護士の資格取得を予定。

※1 父子家庭を含む、ひとり親家庭のこと。



❸ 鳥獣被害防止対策事業 39万1千円

緊急銃猟における対策に係る費用の計上

Q 費用の具体的な内容は。

A クマ用の捕獲檻等を購入するための予算



核兵器禁止条約第1回再検討会議へのオブザーバー参加に関する決議

令和8年11月に開催が予定されている、第1回再検討会議にオブザーバー参加するよう強く要望する。

提出先
・衆議院議長
森　英介　様
・参議院議長
関口　昌一　様
・内閣総理大臣
高市　早苗　様

核兵器禁止条約第１回再検討会議へのオブザーバー参加を求める意見書

現在、国際社会では、ロシア連邦によるウクライナ侵略や中東情勢の悪化を背景に、極めて深刻かつ緊迫した状況が続いており、核保有国による核威嚇や核兵器使用の懸念が一段と高まっている。

こうした状況の下、核兵器の開発・保有・使用を全面的に禁止し、被害者支援や環境回復を規定する核兵器禁止条約（TPNW）は、核兵器の非人道性を国際法上明確に位置づける重要な枠組みとして、その意義を一層強めている。

同条約は2021年1月22日に発効し、本年2026年で5年を迎える。これまでに締約国会議が3回開催され、核軍縮の具体的進展、被害者支援、環境回復など、核廃絶に向けた具体的議論が積み重ねられてきた。

そして2026年11月には、発効後初となる第1回再検討会議が開催される予定であり、これまでの取り組みを検証し、核なき世界に向けた国際的議論を前進させる重要な節目となる。

核兵器の使用は、人道上深刻かつ回復不能な被害をもたらし、国際社会の安全と人類の存続に重大な脅威を与えるものである。また、核兵器のない世界の実現は、世代を超えて取り組むべき最重要課題である。

唯一の戦争被爆国であるわが国は、被爆の実相を国際社会と共有し、核兵器の非人道性への理解を広げる歴史的責務を負っている。しかし、現時点で日本は同条約を締結しておらず、国際的議論への関与が十分とは言えない。

こうした中、核兵器禁止条約第１回再検討会議へのオブザーバー参加は、日本が核廃絶に向けた明確な意思を国際社会に示す重要な一歩となる。オブザーバーとして参加することは、被爆の実相を世界に突きつけ、核兵器の非人道性を揺るぎない事実として国際社会に刻み込む行動であり、同時に日本が平和国家として歩む決意を、より確固たるものとして示すことにつながる。

よって、熊野町議会は日本政府に対し、核兵器禁止条約第１回再検討会議へオブザーバーとして参加し、核兵器廃絶に向けた国際的議論に積極的に関与することを強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出する。

令和８年９月２日

広島県熊野町議会議長 時光 良造

内閣総理大臣 高市 早苗 殿

熊野町教育委員会の任命に同意

令和８年９月３０日で任期満了することに伴い、２名の再任が適任であると判断しました。

佛圓（ぶつえん）　悦子（えつこ）　氏　　佛圓（ぶつえん）　弘修（ひろのぶ）　氏

教育委員会では学校の設置、教育人事や研修、校舎設備、教科書の採択など、その地域の教育に関する大切なことを会議で決める。
任期は４年で再任可

令和7年度決算を認定！

９月定例会において提案された令和７年度各会計決算は、９月２日・３日の２日間にわたり議員全員で構成する決算特別委員会において審査され、９月３日の本会議で全会計とも認定されました。

（単位：千円）

会計名	歳入総額	歳出総額	差引
一般会計	11,939,918	11,657,256	282,662
国民健康保険事業特別会計	1,987,241	1,974,071	13,170
後期高齢者医療特別会計	1,012,144	999,980	12,164
介護保険特別会計	2,460,242	2,456,833	3,409
下水道事業会計	957,396	1,122,516	△165,120
合計	18,356,941	18,210,656	146,285

■決算審査Q＆A

ふるさと納税事務事業

8,968 万6 千円



▲ふるさと納税を活用した町民夏まつり

Q ふるさと納税のうち、企業版ふるさと納税の税額を伸ばす取り組みは行っているか。

A 今年度、企業とのネットワークを持つ専門事業者と連携するマッチング支援業務を導入し納税額の増強に取り組んでいる。

Q 返礼品のない企業版ふるさと納税へのメリットはあるのか。

A 寄付(納税)額の９割に税制上の損金算入や税額控除等が認められている。本町では寄付された企業の名称、寄付額等をホームページに掲載するとともに、企業のホームページにリンクできるようにしている。また、100万円以上の寄付には、感謝状の贈呈と町広報紙への掲載を実施している。

定住交流促進事業

（地域おこし協力隊）

78 万9 千円



▲地域おこし協力隊に任命されたルマヌご夫妻

Q 都市住民を地域協力隊員として採用し、地域ブランドの開発、農林水産業や地場産業への従事、住民支援などの地域協力活動を行ってもらう地域おこし協力隊事業。今年度の取り組みは。

A 筆の里工房創作館内に開設するカフェを運営する隊員を募集した。今後は、本町が文化芸術の力で地域を盛り上げるために立ち上げたプロやアマチュアを問わず参加できる人と人をつなぐコミュニティであるクマノ・クリエイティブ・パレット（ＫＣＰ）とも連携し、フランス文化に触れる講座や食のワークショップなども計画している。

Q 任期は何年か。また、その後は。

A 任期は最長３年間。その後も町内に定住し、引き続きカフェを運営していただくよう期待している。

一般会計 116億5,725万円の使い道と成果は？

防犯対策事業

（防犯カメラ等設置補助金）

944 万7 千円



◀設置されたインターフォン

Q 令和７年度第一次募集の際は申請開始初日で予算額に達するという状況であったが、令和８年度の執行状況は。

A ８月末時点で防犯カメラ30件、録画機能付きインターフォン56件の計86件の申請がある。予算額300万円に対し執行額218万円である。

Q 令和９年度も事業継続するのか。

A 今年度の状況を見て検討する。

介護保険事業

（保険給付費）

22 億7,462 万9 千円



Q 65歳以上の第１号被保険者数は減少傾向であるにもかかわらず、介護認定者数、保険給付費が増大している理由は。

A 介護リスクの高い75歳以上の後期高齢者数の比率が上昇しているためである。

図書館運営事業

5,183 万9 千円



◀図書館の様子

Q 町立図書館の過去５年間の図書購入費の額は。また、購入先は町内の書店か。

A 平均750万円の図書を東京に本社がある図書館を顧客とする事業者から購入している。

Q 町内の小中学校図書館では町内の書店から図書を購入している。なぜ町立図書館では町内の書店で購入しないのか。

A 町内の書店では、毎週約50冊の大量購入に対応できないこと。また、購入業者ではバーコードラベル、背ラベル、ICタグの貼付、データ書込み等を無料で行ってくれていることがその理由である。

学校給食事業

2 億1,419 万1 千円



◀温かい学校給食

Q 町内の小中学校全校で温かい食缶給食が始まり１年が経過したが、成果と課題は。

A 温かい学校給食は、児童生徒からおおむね好評である。しかし、中学生からご飯の量が少ないという声があったことを確認している。今後、児童生徒、保護者を対象にアンケートを実施し、課題を把握し改善に結び付けたい。

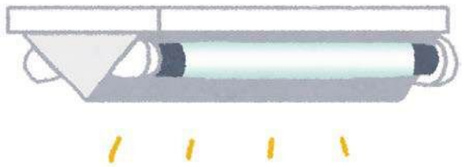
令和8年7月臨時会　議会審議をピックアップ！

主な議決事項

①公共施設の照明をLED化

熊野町公共施設等照明設備ＬＥＤ化業務委託契約を可決

対 象 施 設：23施設
ＬＥＤ交換：約12，000台
契　約　額：2億9，656万円（税込）
契 約 期 間：議決の翌日～令和9年3月31日
年間電気料金：約715万円削減見込み
電力使用量：約67%削減見込み
CO_2排出量：年間約128トン削減見込み



Q　なぜプロポーザル方式にしたのか？

A　脱炭素化推進事業債を活用するためリース方式は適さず、調査・設計から機器調達、施工までを一括して行うことで、期間短縮や財政負担の軽減を図るため採用した。

※契約後５年間は保守・維持管理が行われ、６年目以降は町が対応することとなります。

②中学校体育館に空調設備

熊野町立中学校体育館空調設備整備工事請負契約を可決

熊野中学校：室外機３台・室内機12台
熊野東中学校：室外機４台・室内機16台

各中学校に災害用LPガス貯槽ユニットを１基
体育館の窓に遮熱塗装を実施

契　約　額：1億2,345万6,300円（税込）
工　　期：議決の翌日～令和９年２月26日



▲空調設備（イメージ）

Q　卓球やバドミントンなど、風の影響を受ける競技への影響は？

A　風が直接コートに吹きつけないガイドルーバー付きの機種を採用し、風量調整などにより競技に支障が出ないよう配慮する。



ずばり町政を問う！

一般質問とは？

定例会で、議員が町の施策の状況や方針などについて報告・説明を求め、疑問点を質したり政策を提案することを一般質問といいます。
発言時間は答弁を含め、１人６０分以内としています。

皆さんの「くらし」にかかわることを、議員が質問をしました。

ページ	質問者	質問事項
8	藤本健太　議員	１．部活動の地域移行の今後は ２．町内の防災訓練は
9	世良将生　議員	１．地域公共交通の今後は ２．主要道路の歩道整備は進んでいるのか
10	中島数宜　議員 福垣内邦治　議員	１．「紙おむつ」一歩踏み込んだ支援を １．生成AIの活用状況と今度の展望は
11	水原耕一　議員	１．ゴミ出しルールについての町の考えは ２．森づくり交付金による草刈りはもう限界では
12	沖田ゆかり　議員	１．マイボトル対応型給水機の設置を ２．くまどく事業の推進を
13	片川　学　議員	１．熊野町の将来を見据えたまちづくりは

※紙面の関係により、質疑の一部のみを掲載させていただいています。
また、分かりやすい紙面にするために、趣旨が変わらない程度の編集を行っています。
なお、熊野町議会のホームページ（ https://www.town.kumano.lg.jp ）から、一般質問の全ての内容を視聴することができます。



藤本 健太 議員

録画映像

Q 中学校部活動の地域移行の今後は

A 教育部長

持続可能な運営・実施体制と支援策を検討し、部活動改革を進めていく。

Q1

改革推進期間から改革実行期間へと転換したが、今後の詳細なスケジュールは。

A1

段階的に取り組みを推進していく。今年度は基盤整備・準備期間とし、児童生徒・保護者への意向調査等や推進協議会の設置、基本方針の策定や「地域クラブ認定制度」などのルール整備等を行う。

Q2

直接生徒に関わる部活指導員、専門指導員の人材確保は。

A2

既存の活動団体との連携、人材バンク登録などにより、地域住民や競技経験者、大学生や退職教職員等の多様な人材を確保していく。

Q3

部活指導者、専門指導員報酬の財源は。

A3

県補助金である「部活動の地域展開等推進事業補助金」の活用を考えている。

Q4

教育的な一貫性・責任の所在はどのようにお考えか。

A4

部活動を地域に委ねるだけでなく、公的な認定制度を厳格に運用するとともに、活動を定期的に確認して指導助言を行うことで、町が責任をもって活動の質と安全性を確保する。



Q 町内の防災訓練は

A 町　長

熊野町総合計画に基づき、防災訓練の実施に努める。

Q1

各自治会、自主防災組織等の把握できている避難訓練の件数は。

A1

自治会及び自主防災組織が主体となって実施した避難訓練に関しては、把握していない。自治会等からの要請に基づき、訓練の内容や方法等、具体的な支援を行っていきたいと考えている。

Q2

産官学で連携を取り避難訓練の実施なども考えることはできないか。

A2

訓練に協力いただける企業や学校の有無など、今後「産官学民」で連携した訓練が可能かどうか、研究する。

Q3

平成30年の豪雨災害が風化しないための取組は。

A3

豪雨災害の記憶を伝えていくため、令和２年度に「豪雨被災誌」を発行し、令和３年度に「大原祈念公園」の整備をおこなった。この他に、毎年７月６日の「防災の日」を含む期間を防災週間とし、役場本庁舎１階エントランスホールで平成30年７月豪雨災害のパネル展示や、復興映像を流している。また、学校や地域から依頼の出前講座では、この豪雨災害の状況を説明することで、記憶が風化しないよう努めている。



Q 地域公共交通の今後は

A 町　長

令和６年３月に策定した熊野町地域公共交通計画に基づき、取り組んでいる。

録画映像



世良 将生 議員

Q1

今回の広電バスのダイヤ改正が、熊野町の公共交通にとってどのような意義を持つものと考えているか。

A1

より機能的で使いやすい交通網へ転換する、前向きな再編である。

Q2

新設される筆の里工房線の利用増加にどのような工夫を考えているか。

A2

事業者と連携して検討し、より多くの方に利用いただける路線となるように努めていく。

A3

現在の交通結節点・広電バス熊野営業所の中央移転、または新たな交通結節点の中央部への新設は考えていないのか。

Q3

熊野町地域公共交通計画において、路線バスとおでかけ号等をスムーズに乗り継げることを目的に交通結節点の整備を掲げており、関係機関等と協議を行っている。



Q 主要道路の歩道整備は進んでいるのか

A 町　長

広島県に対して、効果的な安全対策の実施を要望している。

Q1

歩道整備については２年前に同僚議員から同様の質問があったが、その後、シニアカーの走行困難な歩道の改善は進んでいるのか。

A1

沿道に宅地が近接しており、用地取得が困難であること。歩車分離を目的に歩道が一段高くなっているが、家屋の進入路や交差点部では切り下げが必要となることから、上がったり下がったりを繰り返している。逆に歩道を掘り下げるとなると、20 センチ幅の境界ブロックを設置する必要があり、歩道が狭くなってしまうなど課題が多く思うように進んでいない。

Q2

主要道路以外で例えば、子供たちや高齢者が日常的に利用される道路で道路自体を広げることが困難な場合の対応策は。

A2

歩道のない町道では、視覚的に歩道空間を認識させるため、カラー舗装や路面標示により対策を講じている。




中島 数宜 議員

録画映像

Q「紙おむつ」一歩踏み込んだ支援を

A 町　長

持続可能でかつ実効性のある支援の充実に努めてまいります。

Q1

紙おむつの支援の現状は。

A1

高齢者については、一定の支援要件を満たしている家族に対して「家族介護用品支給事業」により実施している。乳幼児への支援に対しては紙おむつ購入費も含めた妊婦のための支援給付金等により支援している。

Q2

高齢者が令和７年度に紙おむつの支援を受けた人は僅か６名に過ぎない。支援しているとはいえない。町独自の支援と、支援要件の緩和、制度の見直しが必要ではないか。

A2

制度の導入時と比較して昨今の物価高騰で世帯の家計に与える影響は深刻であると認識している。支給要件を含め現状の課題を精査する必要があると考えている。

Q3

紙おむつの支援は単にお金を出すだけではなく、町が高齢者、障がい者、子育て世代に暖かく寄り添っている強いメッセージに繋がる。一歩突っ込んだ検討をお願いする。

A3

制度の動向や他自治体の現状等も注視しながら引き続き調査・研究に努める。




福垣内 邦治 議員

録画映像

Q 生成ＡＩの活用状況と今後の展望は

A 町　長

安全を確保し、全庁的な活用で時間を創出し、行政サービスの質向上を図る。

Q1

生成ＡＩの導入状況は。

A1

全庁的に導入し、約100人の職員が既に業務で利用している。

Q2

情報管理などの安全対策は。

A2

ガイドラインを定め、個人情報の保護と事実確認を徹底している。





Q3

職員の人材育成と研修は。

A3

全職員の利用前の事前研修を必須とし、実践的な研修内容としている。

Q4

全庁的な活用と住民サービスへの展開は。

A4

活用事例を全庁的に共有・展開し、業務効率化と住民サービス向上へ繋げていく。

Q ごみ出しルールについての町の考えは

A 町　長

ごみ出しルールの周知を強化し、指導体制の充実を図る。


水原 耕一 議員

録画映像

Q1

外国人のためのごみ出しカレンダーは、何ヶ国語に対応しているか。

A1

英語、ベトナム語、ポルトガル語、中国語の４ヶ国語を準備している。

Q2

その他の外国人が在住された場合の対応は。

A2

やさしい日本語版ガイドを配布している。必要に応じて翻訳アプリによる対応や外国人総合相談窓口を利用していただいている。



Q3

自治会未加入者がごみステーションの利用を禁止され、遠方のごみステーションに捨てたり、不法投棄に繋がるケースが生じているが、町の考えは。

A3

本町の住民であれば、自治会加入・未加入に関わらず、行政サービスとして収集運搬業務を受ける権利があると考えている。一方で、ごみステーションは地元で管理されており、地域の方の自主的な運営によって成り立っているため、未加入者もごみステーションの清掃などの管理運営に携わっていただく必要があると考えている。

Q 森づくり交付金による草刈りはもう限界では

A 建設農林部長

各地域の意見を聞きながら維持管理していく。

Q1

熊野団地・さくら野団地・皇帝ハイツの町有地ののり面の草刈りを森づくり交付金を活用し行われている。文字通り森を作る交付金なので草刈りの仕方が違う。どのような刈り方か。

A1

木の生長が進んでいる個所で、伐採や枝打ち、間伐等と併せて実施している。

Q2

森を作る刈り方なので次に刈るときは森の状態になっており、ますます刈るのが大変で費用がかさんでくるのではないか。



A2

年数が経つに連れて伐採等の費用がかさむ傾向ではあるが、緑化による植物の働きによりのり面の崩落を防止し、土砂災害の抑制に寄与している。

Q3

住宅に近いのり面だけでも防草シート等を使用して管理することは考えられないか。

A3

近年多く見られ、夏場の照り返しや雨水の流出などの問題が考えられるが、草の繁茂による苦情も増加傾向にあるので、今後も持続的に管理ができるように方法の見直しを考える。



沖田 ゆかり 議員

録画映像

Q マイボトル対応型給水機の設置を

A 教育部長

利用者のニーズと防災の観点から検討していく。

Q1

近年の夏の猛暑は深刻さを増しており、町民の健康を守るための熱中症対策は喫緊の課題となっている。公共施設へのマイボトル対応型給水機の設置は必要ではないか。

A1

熱中症を未然に防ぐ重要な予防インフラと捉えている。国や他自治体の動向を注視しつつ効果的な設置方法を調査研究していく。

Q2

中学校には冷水機が設置されているようだが、衛生面や感染症の懸念があるため給水機の方が望ましいのではないか。

A2

過去には、町民体育館の冷水機を撤去した経緯もあり、今後は十分に検討していく。

Q3

東防災交流センターには飲料の自動販売機が設置されていない。町民の水分補給のため、マイボトル対応型給水機の設置を早急にして頂きたいが。

A3

利用者のニーズと防災の観点から、検討していく。



▲ マイボトル対応型給水機

Q くまどく事業の推進を

A 教育長

読書活動の推進に取り組んでいく。

Q1

ライフスタイルの変化やＩＣＴ環境の普及など、読書を取り巻く環境の変化に対応し、見直しをされたとのことだが。

A1

くまどくチャレンジでは年間を通して読書週間の確立を図り、特にくまどくチャレンジ月間を定め読書活動の推進に取組んでいる。

Q2

小中学生に対しては、クラス対抗で競い合って、楽しく取り組めるようにすることも必要ではないか。

A2

第二小学校では、学習用タブレット端末を活用してクラスでの取り組みを可視化している。今後、町内小学校に広げていきたい。

Q3

この事業では、子ども達のいじめのない豊かな心を育て、親子で本に親しむことで会話が増え、絆が深まることから推進されている。この視点を忘れずに取り組んでいただきたいが。

A3

保育所では親子で読むことを大事にしている。発達段階に応じて読書習慣を身につけるよう取り組んでいく。



Q 熊野町の将来を見据えたまちづくりは

A 町　長

「ひと まち 育む 筆の都 なんかいい ちょうどいい」
そう思えるまちを目指す。

録画映像



片川 学 議員



◀熊野町の景色

Q1

昨今、近隣市企業に大きな変化がみられる。当町は、近隣企業のベッドタウンとして成長維持してきた、人口流入・財政安定をめざし、改めて町全体をベッドタウン構想として積極的に取り組むべきではないか。

A1

開発行為が盛んであり後押しする。老朽化の進むコーポラスの今後・北県営整備、坊主山商店街や、周辺の活性化の支援をしていく。

Q2

トンネル無償化前より渋滞予測し訴えてきた。道路整備が遅すぎる。近隣市企業により一層の交通量増加、整備が喫緊の課題・最大の好機、町民の利便性と通勤通学・陸の孤島からの脱却のため、町道・県道・新たな新峠へのトンネル整備を喫緊にするべき。

A2

筆の里工房周辺整備と町道萩原線のめどがつき次第。広域的なこともあり町だけでなく県等とも相談の上、優先順位を詰め決めていく。



ハラスメント感覚とリスク管理を学ぶ

広島県町議会議員研修会

令和８年８月19日、リーガロイヤルホテル広島で開催された研修会に参加しました。

演 題

**「いま議会に求められる
ハラスメント感覚とリスク管理」**

講 師

オフィスプリズム代表
臨床心理士・社会保険労務士
涌　井　美和子 氏



▲ 研修会の様子

昨今、議員からのパワハラ事案が、様々な場面で発生しています。議員という立場を自覚し、行政職員や町民の皆さまへの言動に十分注意する必要性を再認識しました。

今後は、権限や影響力を正しく理解し、相手の立場に立った丁寧な対話を心がけます。

令和7･8年度の　主要事業をチェック

総務建設委員会

６月30日、所管事務調査の一環として本委員会を開催し、町執行部（総務部･住民生活部･建設農林部）から「令和７年度主要事業の実績」、「令和８年度主要事業計画」について説明を受け、質疑を行いました。

また、本委員会の今年度活動計画の策定と重点調査項目を決定しました。



所管する事業が適正に計画通り実施されているか確認しました。

重点調査項目

本年９月23日にオープンした筆の里工房・創作館に続き、公園内に今年度末に完成予定の大型遊具整備事業など令和９年度完了予定の「筆の里工房周辺整備事業（筆の里創造の丘公苑）」と人口減少時代のなか本町が取り組むべき「移住・定住対策」を今年度の重点調査項目に決定しました。

町執行部への政策提言に向け、今後、現地調査、先進地調査等の活動を行います。



筆の里工房・創作館

所管事務調査とは・・・

地方自治法第109条に基づき、議会の常任委員会などが所管する部内の事務事業について、自主的にテーマを設定して調査・研究を行う仕組みです。

町執行部から提出された議案の審議結果だけでなく、こうした委員会による調査の成果や経過を「所管事務調査報告」として『くまの議会だより』などで住民の皆様に周知してまいります。



プロポーザル提案時点の大型遊具完成イメージ

文教福祉委員会

７月２日に令和７年度主要事業の実施状況と、令和８年度主要事業の計画とその概要等について健康福祉部並びに、教育委員会から報告を受けた後質疑を行いました。また、重点調査項目と年間活動計画を決定しました。

主な質疑

Q 生活保護を受ける傾向が高い独居老人、高齢者世帯の現状は。

A 生活保護受給世帯のうち高齢者世帯は、33％程度となっている。

Q 介護保険の被保険者数は減少傾向であるが事業費は増加している。その要因は。

A 高齢者人口はピークを迎えている。認定率が微増で、介護サービスを受ける人が増加しているため事業費が増加している。



▲文教福祉委員会の様子

Q ５才児健診は医師確保が難しいと聞くが、９月から開始できる体制は整っているか。

A 健診医の確保はできた。また、健診に必要な専門職である心理職、保健師、保育士、栄養士も確保できた。健診後のフォロー体制を検討しているところで、９月から開始する。

Q 町立中学校体育館空調設備整備事業の工期が令和９年２月となっている。空調設備、エアコンはもっと早く完成できないか。

A 工期は令和９年２月末となっているが、できるだけ年内に終わらせるよう調整している。

Q 部活動の地域移行及び地域展開には良い点悪い点がある。教員の働き方改革を含めどのように考えているか。

A 先ずは現状を把握し、可能な部から取組を進めていこうと考えている。国の動向を注視しながらガイドラインの作成等を行っていきたいと考えている。本町の現況は、子どもの数の推計等をみても、当面部活動の継続は可能である。東中学校陸上部が全国大会にも出場するなど、生徒たちは頑張っている。課題点として、外部指導者との指導感の違いが発生しないか懸念している。一番大切なのは、子どもたちが部活動を通じ、確かな成長を図ることである。引き続き、よりよい形を模索して行く。

今年度の活動計画

次の重点調査項目を中心に調査・研究を行い、政策提言を目標に委員会を運営していきます。

1. 部活動の地域展開の取組みについて　2. 認知症対策について





～魅力ある“まち”づくりに何が必要か～

ワールドカフェinくまの

令和8年8月24日、熊野町役場にて熊野第1～第4小学校の6年生の児童28名と町議会議員全員による意見交換会をワールドカフェ方式により行いました。今年で4回目の開催となりますが、笑顔の絶えない和やかな雰囲気の中で、小学生らしい柔軟な想像力や発想力から生まれた、夢のあるたくさんのアイデアをご提案いただきました。















ワールドカフェ（方式）とは

“カフェ”にいるようなリラックスした雰囲気の中で、少人数に分かれたテーブルで意見を出し合います。途中で何度かメンバーをシャッフルして話し合いを発展させていきます。

こんなアイデアが出ました!!



娯楽

- ゴルフ場
- ボウリング場
- 動物園
- 映画館
- 水族館
- 温水プール
- カラオケ
- ゲームセンター

施設

- 高さ666mの展望台
- ふでりんタワー
- 日本一の遊具を設置
- 総合病院の設置
- 全天候型の遊べる施設
- ホテル・マンションの建設

魅力ある“まち”づくり



交通

- 駅をつくる
- 町民は無料の自動運転バス
- バスの本数を増やす
- 呉港・矢野方面へのロープウェイ



食

- 回転寿司
- ファミレス
- 駄菓子屋さんが欲しい

交流

- 祭りや伝統的なものを増やす
- おじさんの集い＆こどもの集い
- 高齢者と子どもや町民がコミュニケーションをとれる活気ある場所
- 地域ボランティアでゴミ拾い

くらし

- スマホを配布
- 働く場所を増やす
- 公園にミストを設置
- 熊野町独自の祝日
- 道路を広く整備
- 災害対策の充実
- 町内へゴミ箱設置
- 筆の伝統を絶やさない
- 自然を壊さないまちづくり



【特集】議会改革を進める!!

議会改革特別委員会の設置

熊野町議会は、議会活動の充実・強化を図るとともに、情報の公開、透明性の向上を図ることがより一層求められているものと考えています。

そのため、令和８年（2026年）３月定例会において、「熊野町議会改革特別委員会の設置に関する決議」が発議・可決され、全議員参加による特別委員会が始動しました。

議会改革の内容

1 議員報酬引き上げの検討と経費節減

2 県外視察の半減と報告の義務化

3 議会報告会や意見交換会等の開催

1 議員報酬引き上げの検討と経費節減

1997年（平成９年）以来、29年間（月額26万円）据え置かれている議員報酬の引き上げの検討が進められる中、報酬改定の前に、経費節減（視察回数や同行職員の削減）を行う方針を確認しました。

県内市町議員報酬状況　R8年5月末現在

単位：人、千円

	人口 令和7年国勢調査人口(速報値)	定数	議長	副議長	委員長	議員	議員1人当たりの人口（人口/定数）
広島市	1,172,423	54	1060	930	－	860	21,712
呉市	191,653	32	660	600	560	550	5,989
竹原市	21,756	14	440	395	367	355	1,554
三原市	83,913	24	530	475	－	428	3,496
尾道市	120,346	28	520	480	－	450	4,298
福山市	439,994	38	795	712	－	660	11,579
府中市	33,347	18	477	433	－	400	1,853
三次市	46,587	22	454	407	387	371	2,118
庄原市	29,598	19	440	380	360	350	1,558
大竹市	24,652	16	478	427	390	375	1,541
東広島市	198,496	30	560	507	－	460	6,617
廿日市市	111,953	27	540	500	－	460	4,146
安芸高田市	24,755	16	410	355	－	325	1,547
江田島市	19,744	16	410	355	－	325	1,234
府中町	51,213	18	380	300	295	290	2,845
海田町	30,048	16	367	316	310	300	1,878
熊野町	22,445	14	328	271	265	260	1,603
坂町	12,030	12	360	306	300	295	1,003
安芸太田町	5,051	11	317	267	253	248	459
北広島町	15,934	12	315	264	248	241	1,328
大崎上島町	6,574	10	333	279	265	260	657
世羅町	13,621	12	330	275	264	259	1,135
神石高原町	7,266	10	315	265	255	245	727

2 県外視察の半減と報告の義務化

・毎年行っている議員の県外視察を、「２年に１回」に半減させます。
・これまで任意だった成果報告書を、全議員が提出することを義務化し、町ホームページに掲載するなど、活動の透明性を向上させます。

全員研修及び各委員会に係る視察研修予算（端数切り上げ）

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	4年間合計
全員研修	128万円	128万円	119万円	119万円	494万円
総務建設委員会	52万円	52万円	52万円	52万円	208万円
文教福祉委員会	52万円	52万円	52万円	52万円	208万円
広報特別委員会	52万円	52万円	52万円	52万円	208万円
年度計	284万円	284万円	275万円	275万円	1,118万円

全員研修及び各委員会は１年に１回、４年間（１期）で合計16回視察を行い、約1,118万円の予算を要しています。

視察回数をそれぞれ２年に１回にすることで、４年間で合計８回、約550万円の予算となり、500万円以上の削減が見込まれます。

3 議会報告会や意見交換会等の開催

町民の皆さまと議員が直接対話することで、議会の決定事項や方針を広く理解していただくよう努めます。町政や議会への関心を高め、町民の皆さまと共に進めるまちづくりを実現します。具体的な内容については、来年度に改めて決定いたします。



『ワールドカフェ in くまの』に参加した児童の感想



各小学校の垣根を越えて
コミュニケーションの輪が広がりました。



最後に普段は入れない
議場を見学しました。



話し合っていくうちにどんどん
良いアイデアが浮かんできました。



未来の熊野町議会議長になる!?

ワールドカフェ in くまの を終えて



熊野町の将来を担う小学6年生28名の皆さんと一緒に“まち”の未来について語りあいました。皆さん、緊張気味でしたので、はじめに全員参加のミニゲームでウォーミングアップをしました。

近所に駄菓子屋が欲しいとかゲームセンターが欲しいといった小学生らしい意見からマンションなど住む場所を増やして熊野町の人口増を狙った議員顔負けの本格的な提案まで様々な意見が出ました。

誰もが住みよい街・熊野町を目指すには子供の目線に立った意見も重要だと感じました。

題字の揮ごう者



熊野中学校２年生
井上（いのうえ） 友杏（ゆず）さん

あとがき

筆の里工房・創作館が９月23日にオープンしました。オープン前の８月23日に行われた「文化芸術のまちづくりシンポジウム」で、テレビ番組「プレバト」の水彩画審査員として活躍され熊野町文化芸術のまちづくり応援大使でもある野村重存（のむらしげあり）さんの基調講演がありました。

野村さんは、子どもから大人まで経験の有無にかかわらず、自由に創作を楽しめる創作館を目指すと語られました。作品づくりを通して人と人との出会い、地域とのつながり、そして未来への希望を育む願いが創作館には込められています。創作館が町内外の人々に親しまれ、笑顔と感動にあふれ、新しい感性や文化が生まれるまちづくりの核となるよう、私たち議会の役割も大きいと考えています。

光本 一也

次の定例会は 12月1日（火曜日） 開会を予定しています

「くまの議会だより」は、認定を受けた環境にやさしい環境対応型インキを使用して印刷されています。